

(5) 防災関連施設

◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
平田小学校	-		
勤労福祉センター分館	-		
県立市川工業高校	-		

◆避難場所

名称
平田小学校
勤労福祉センター分館
県立市川工業高校

◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮者利用施設 (公設)	新田第2保育園		医療救護所	なし
	平田保育園		関連施設	なし



(6) 被害想定結果（地震・風水害）

◆地震災害（被害を受ける割合）

想定項目		平田小学校区	市川市全体
建物被害	全壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	7.6%	4.8%
	半壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	15.7%	11.8%
	焼失棟数の割合	21.2%	10.2%
	浸水棟数（津波）の割合	0.0%	1.1%
人的被害	死者の割合	0.2%	0.1%
	負傷者の割合	0.7%	0.4%
	避難者の割合	34.9%	20.0%



◆風水害（被害を受ける割合）

想定項目		平田小学校区	市川市全体
建物被害	浸水棟数（江戸川）の割合	81.9%	52.9%
	浸水棟数（真間川）の割合	98.3%	47.7%
	浸水棟数（内水）の割合	68.7%	57.9%
	浸水棟数（高潮）の割合	99.6%	64.9%



市全体の結果と比較すると、地震災害については、新耐震基準の建物割合が市全体と同程度であるものの、地震の揺れが特に強いこともあり、建物被害は多い傾向となっています。また、人的被害についても、特に負傷者と避難者が市全体より多くなっています。

一方で、風水害については、高潮の浸水、真間川水系の氾濫の影響が大きく、江戸川の氾濫、内水氾濫による影響も受け、市全体と比較して、浸水棟数が多くなっています。

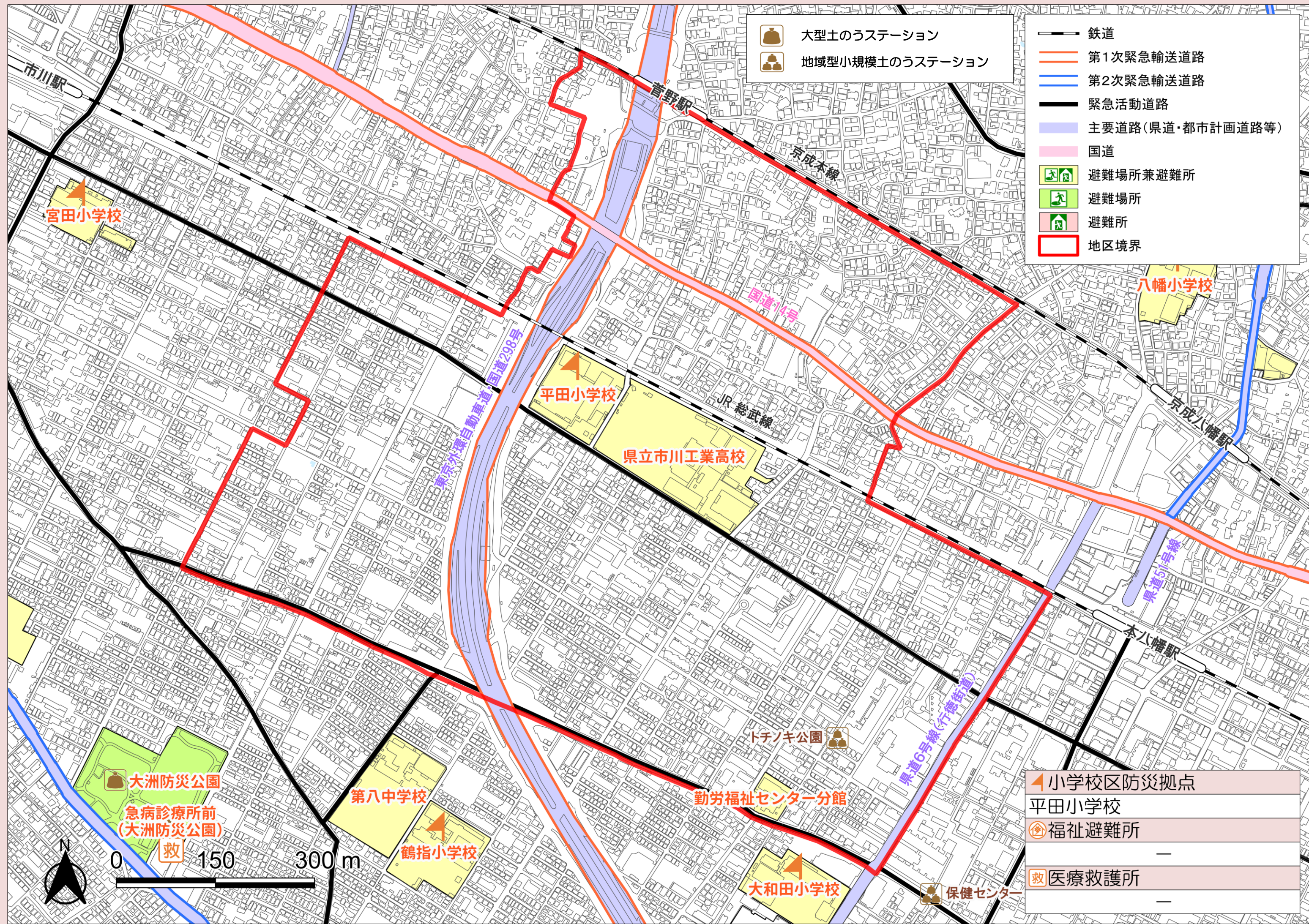
(7) 防災上の課題

項目	課題
地震	地区全域において、震度6強の揺れが予測され、液状化や延焼による危険性が非常に高いことから、耐震対策や延焼対策、初期消火対策、ライフライン途絶に備え、家庭での備蓄対策が重要です。
風水害	河川氾濫による浸水被害や内水氾濫の恐れがあり、また、高潮による浸水の恐れがあることから、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。
まちの安全性	地区には、狭い道路が多いことから、緊急車両が通行可能な道路が重要です。また、延焼遮断帯となる空地や耐火建築物の占める割合が低いことから、初期消火の対策が重要です。
地域の防災力	地区には、避難所の充足度が低いことから、災害発生時は避難所が混雑する可能性があり、在宅避難ができるよう自宅の備えを整えることが重要です。また、防災活動力が低いことから、災害発生時に即座に対応できるよう、初期対応や応急復旧活動に対する対策を行うとともに、未来の防災リーダーとなる人材育成を進めていくことが重要です。

(8) 防災対策の方向性

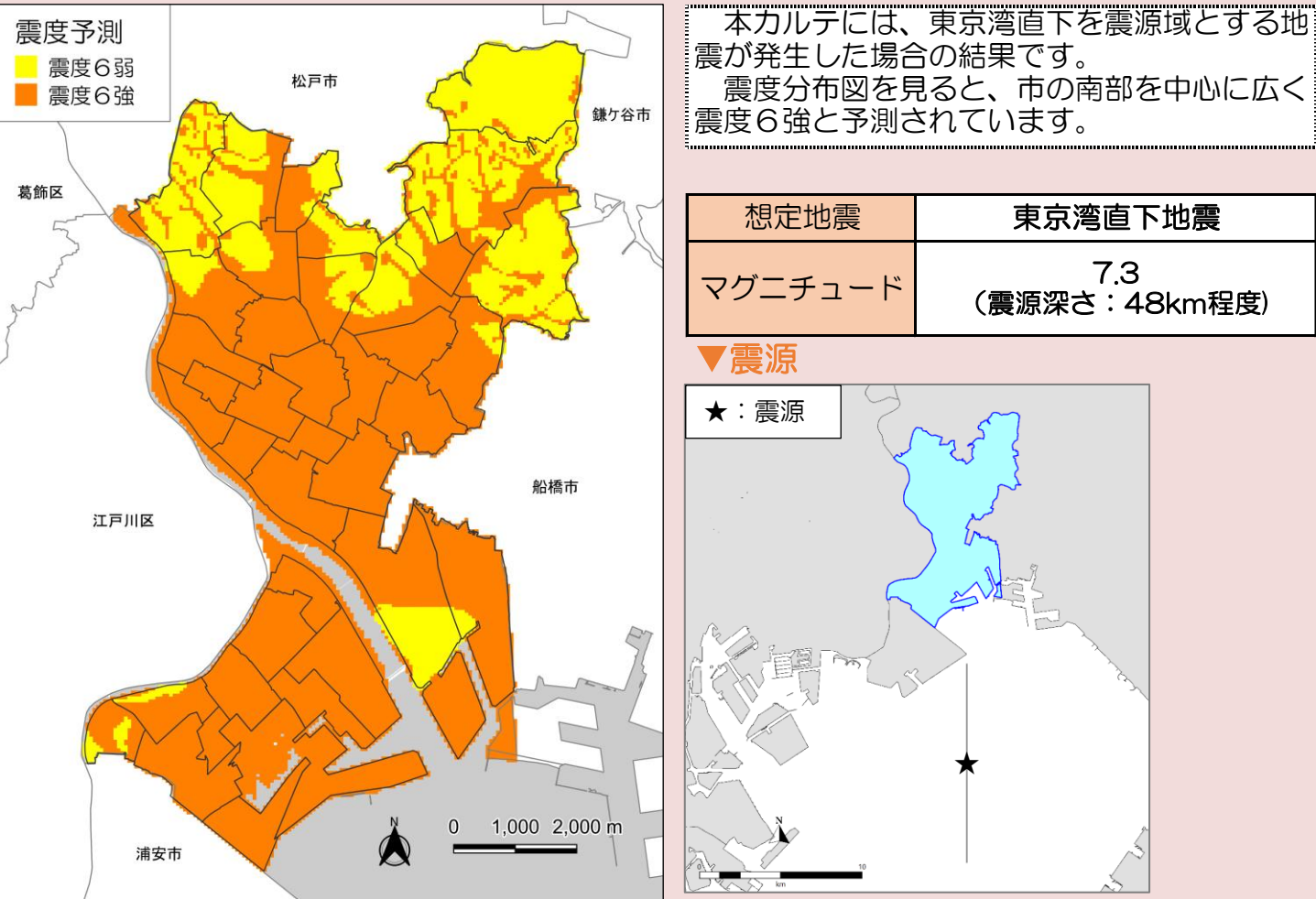
項目	取組の方向性
地域の取組	地区内には、狭い道路が多く、緊急車両が通行可能な道路の確保が大切であることから、市の助成制度である「危険コンクリートブロック塀等除却」や「生垣助成」の助成を利用したブロック塀等の倒壊による災害防止をしておくことが効果的です。 消防活動に対する対策として、市が実施する避難訓練や消火訓練等に地域ぐるみで積極的に参加することが重要です。 市が開催する防災セミナーやイベント等に参加する等、地域ぐるみで防災リーダー等を育成していくことが必要です。
個人の取組	地震に対する備えとしては、市の助成制度である「耐震改修助成制度」を利用した耐震改修工事による自宅の耐震化対策や、「あんしん住宅助成」を利用した感震ブレーカーの設置を進めるとともに、家具の固定など自宅（家庭）の防災性を向上させることが効果的です。 一方、風水害に対する備えとしては、同じく「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置や、土のうステーション等を活用した浸水対策とともに、いざという時円滑に避難できるよう、市からの情報収集方法や浸水想定区域外の避難場所等をあらかじめ水害ハザードマップ等で確認しておくことが効果的です。

(9) 防災マップ



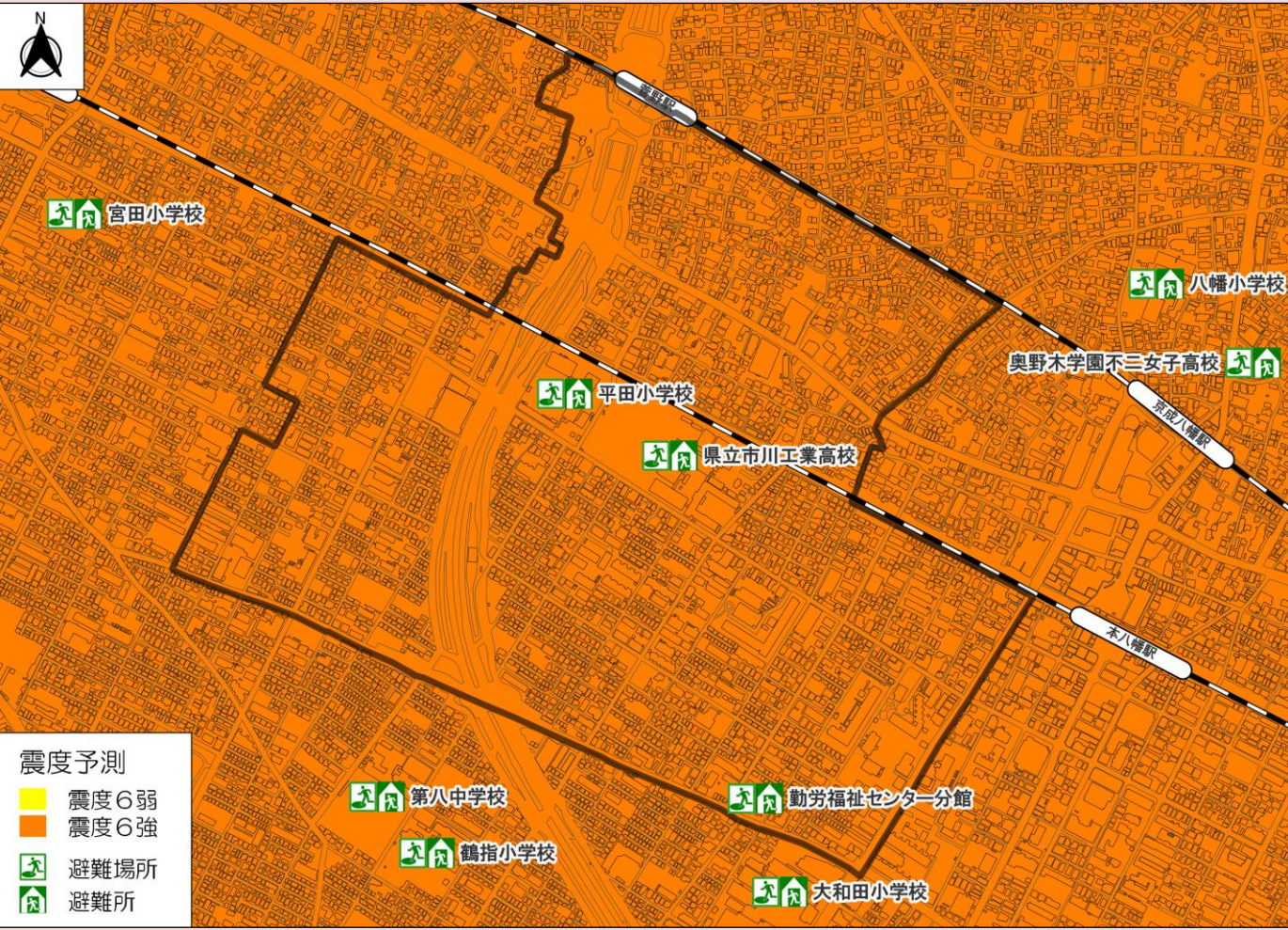
(10) 基礎資料

①市全域の震度分布図

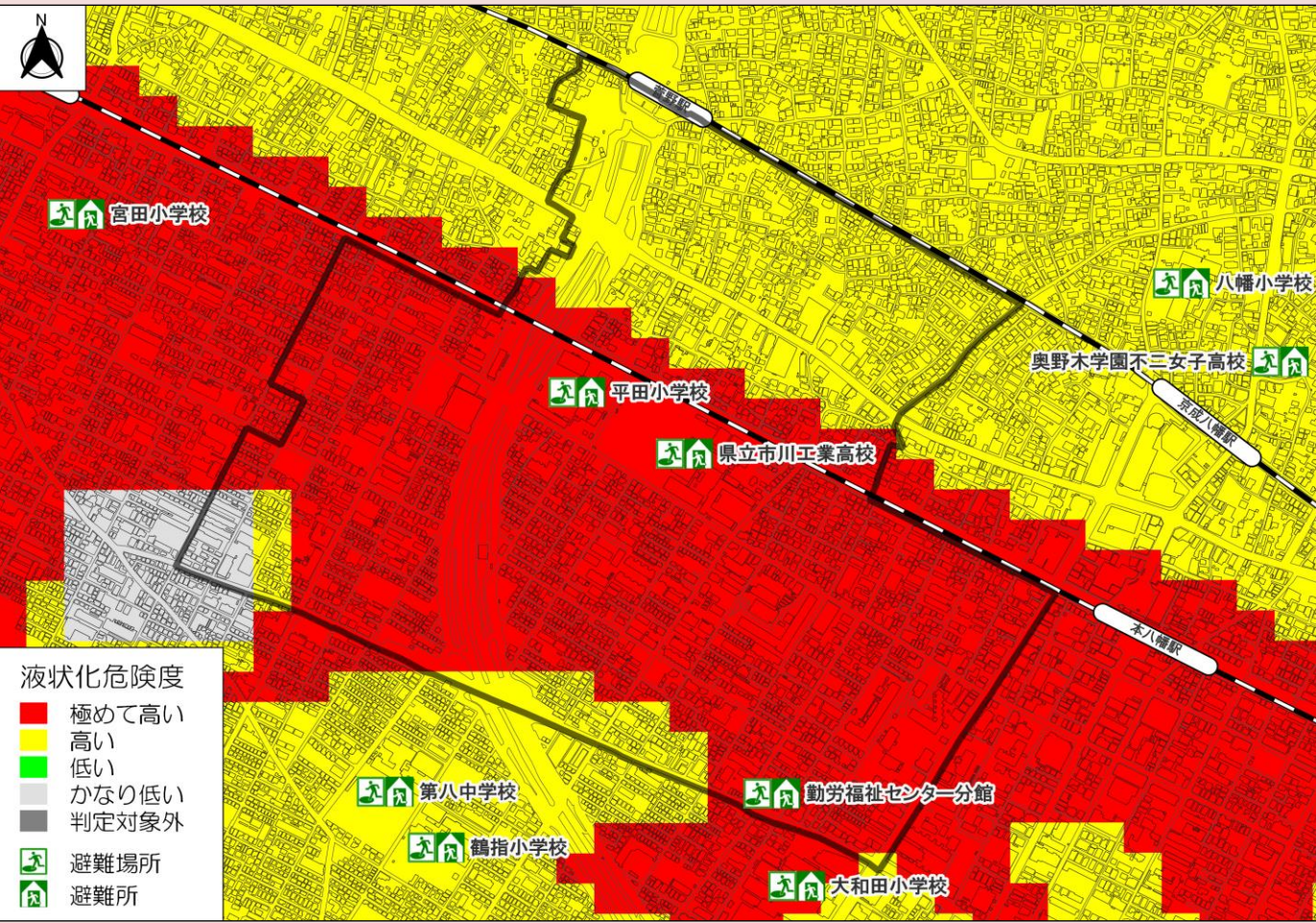


※本結果は市川市地震被害想定結果（令和5年度）に基づいています。

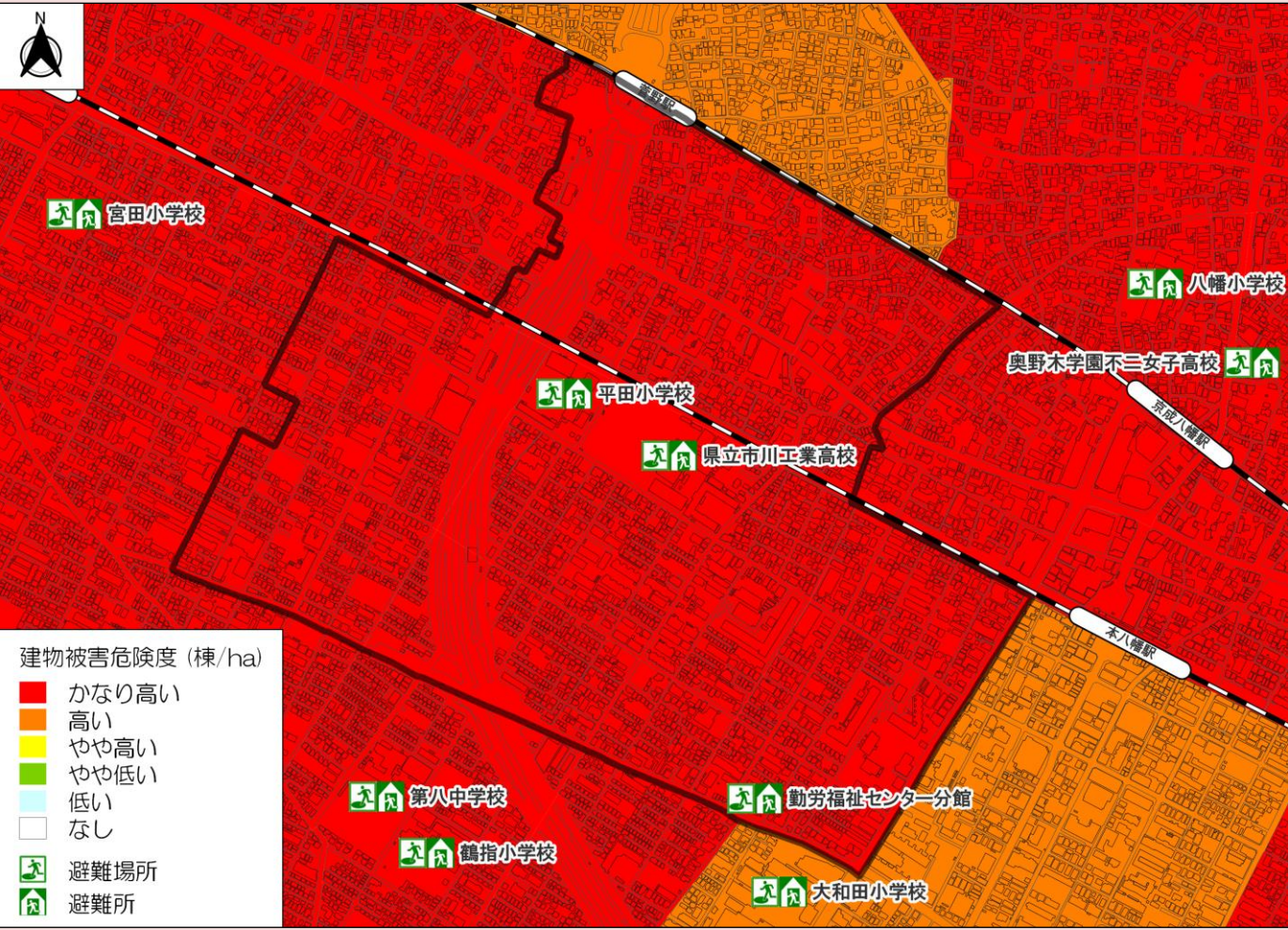
②震度分布図



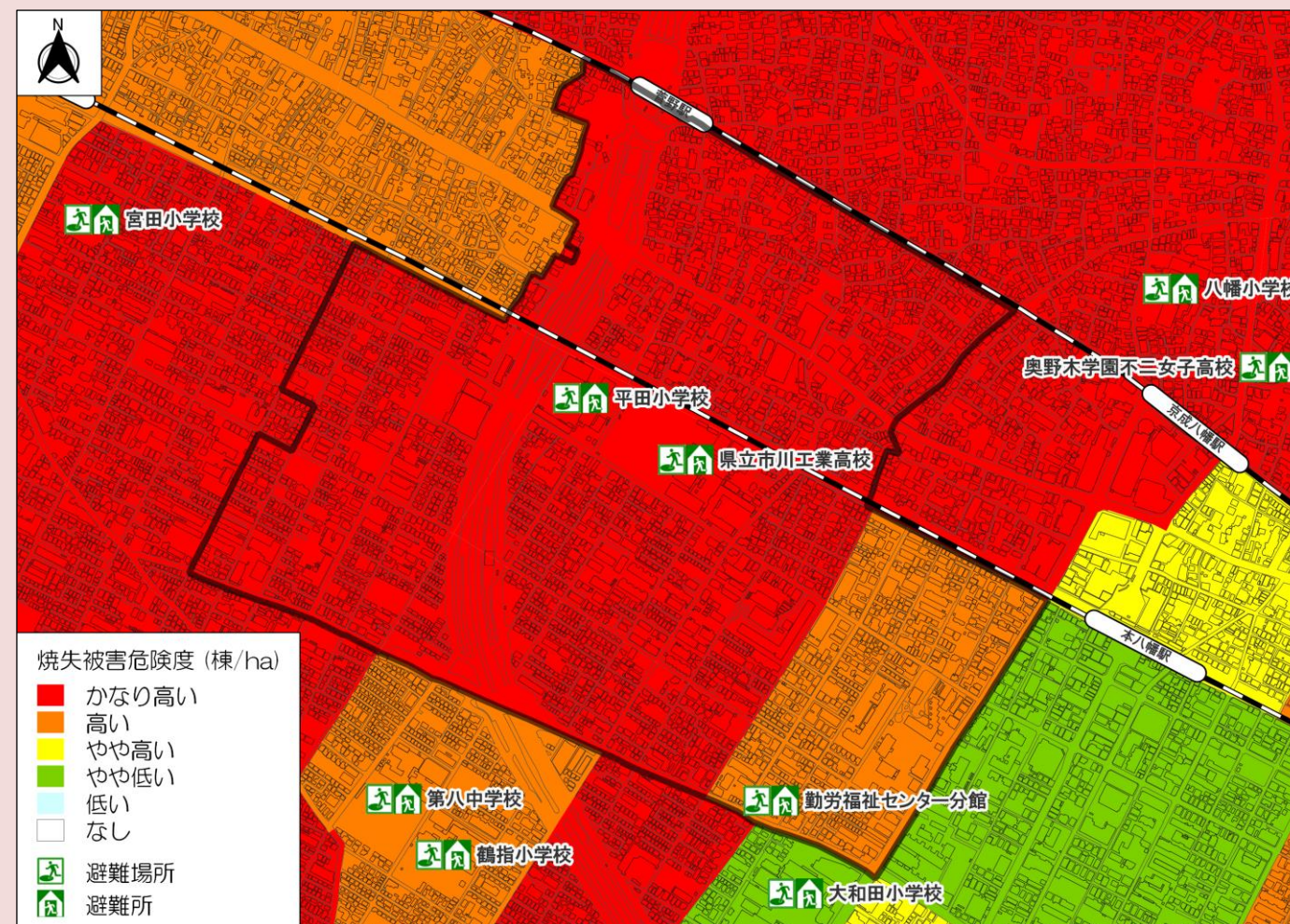
③液状化危険度



④建物被害（揺れ・液状化による被害）



⑤建物被害（延焼による被害）



⑦浸水想定の概要

江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。

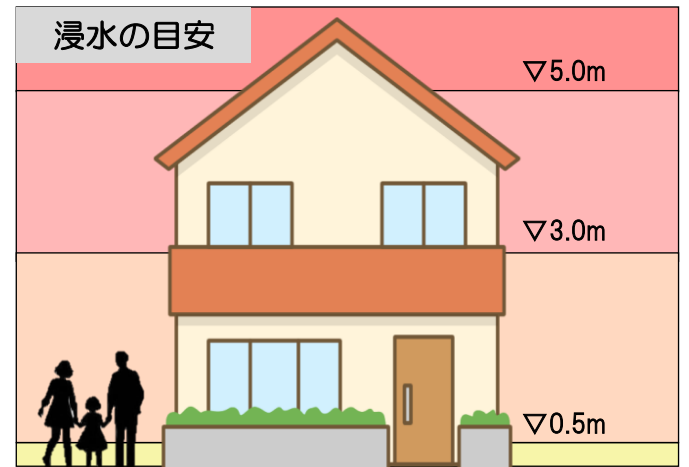
災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ浸水想定区域外の避難所及び避難場所について確認しましょう。

また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。

避難にあたっては、市指定の避難所にこだわらず、浸水しない地域の知人宅、職場などに避難することも有効です。

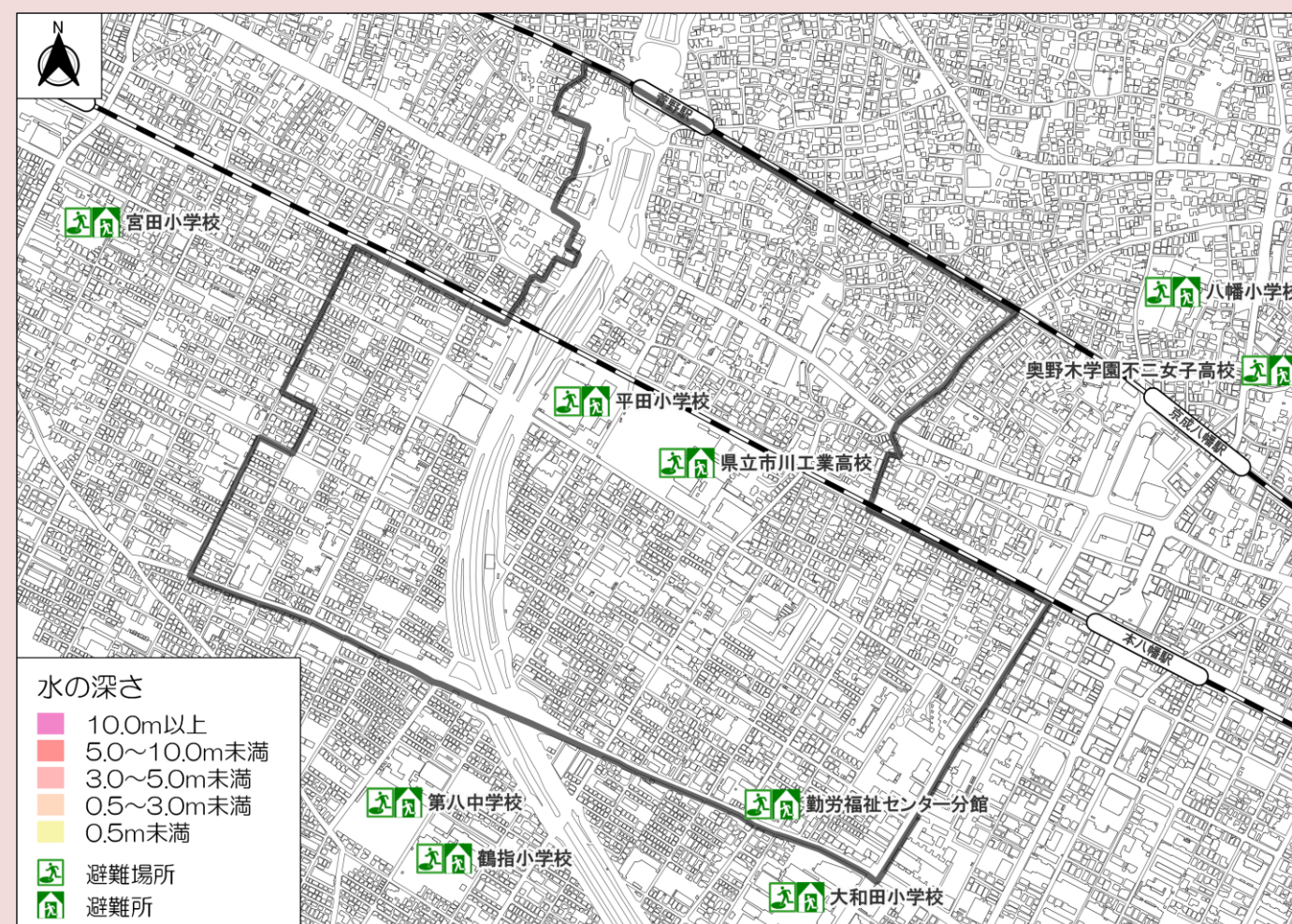
水の深さ

- 水の深さが5.0m以上
- 水の深さが3.0～5.0m未満
- 水の深さが0.5～3.0m未満
- 水の深さが0.5m未満



※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

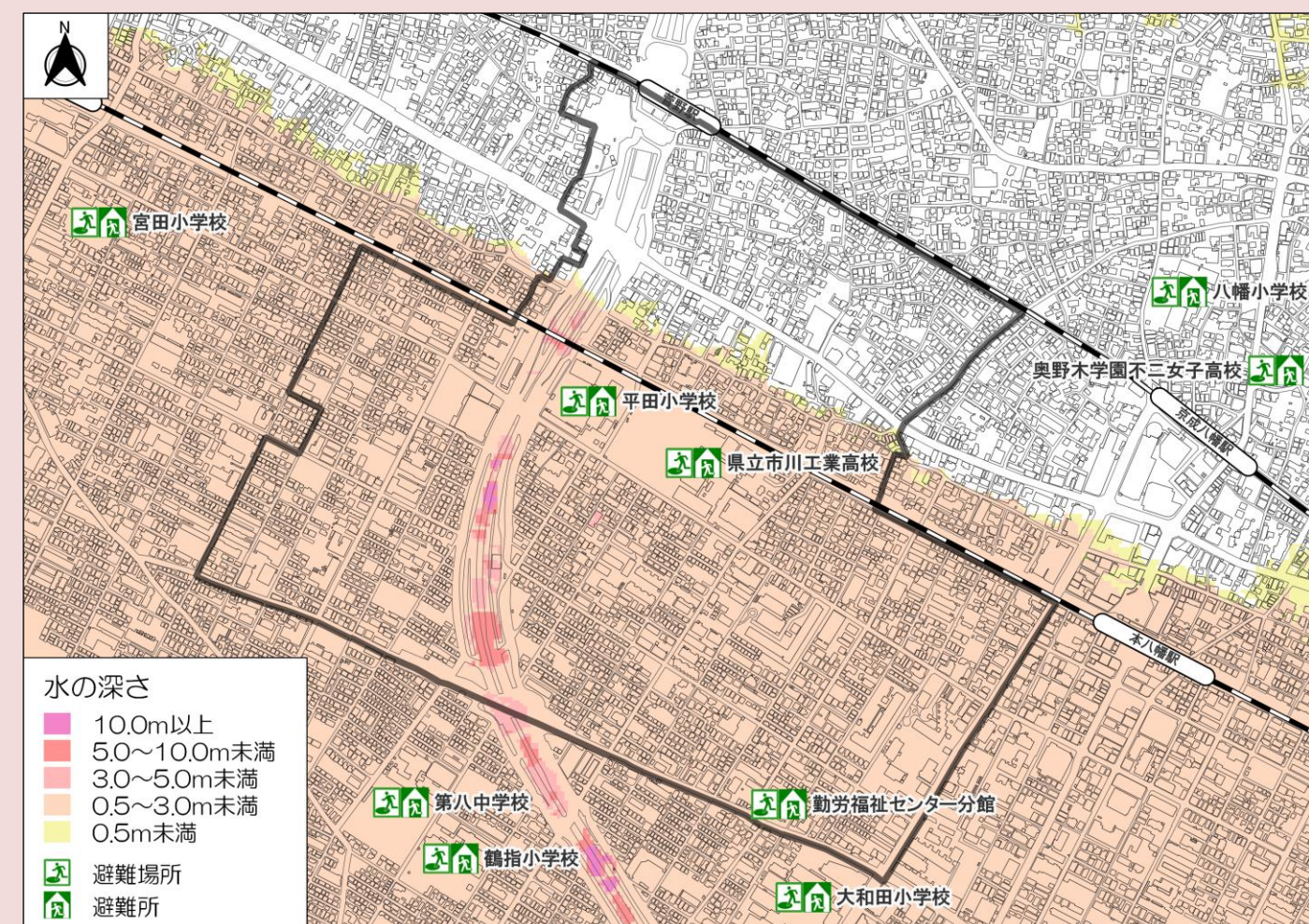
⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

平成24年4月：千葉県

⑧洪水（江戸川）



平成29年7月：国土交通省

